

I 基本知識 ～イノシシの生物学的特徴と痕跡～

1. はじめに

イノシシの生息状況を把握し、被害対策を検討する上で、イノシシに関する基礎知識は必要不可欠である。ここで紹介するイノシシの生物学的特徴と痕跡は、全マニュアルを適切に運用していく上で前提となる基礎知識である。

2. 福島県内の生息状況

環境省が実施した第2回自然環境基礎調査によると、昭和56年当時の県内のイノシシの生息状況は、阿武隈川以東のほぼ全域となっており、阿武隈川以西においては報告されていない。第4回（平成5年）、第5回（平成14年度）の調査においても、第2回調査の結果とほぼ同様の生息域となっていることから、福島県ではそれまでの20年間、イノシシの生息地域はほぼ変化がなかったと考えられる。しかし、第6回（平成16年）の調査では、これまで報告がなかった阿武隈川以西の地域で局所的に生息が報告されるようになった。また、捕獲位置情報や目撃情報によっても、県西部への分布域拡大が確認されている（図I-1）。

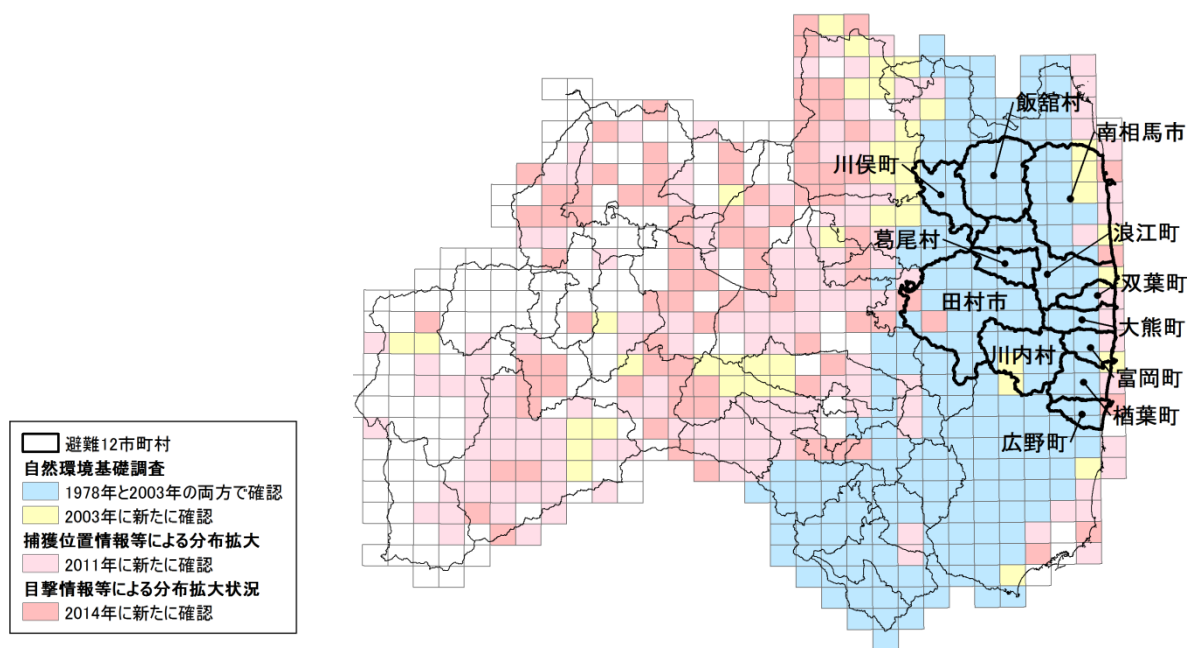


図 I-1 イノシシの生息状況
(環境省 自然環境保全基礎調査より)

3. 基本的生態

生息環境

イノシシは、一般的に農耕地と樹林帯が混在する里山の雑木林などを好むとされている。身体を隠すことができる草むらや藪、耕作放棄地を好んで利用する。手入れがされていない道路の法面や、河川の緑地帯はイノシシの移動ルートとして利用されやすい。

行動圏

行動圏は 2～3km² で季節により変化する。行動圏の中では、移動と定着を繰り返しているが、さらに長時間・高頻度を利用する場所（イノシシ・コア）が存在する。

活動時間

基本的に昼夜を問わず活動する。人を警戒しているときは、日没後から夜間に活動が活発になる傾向がある。

食性

食物の約 8 割を植物が占める雑食性である。ドングリ等の堅果類、草本類やその地下茎、根などの植物の他、昆虫、ミミズ、ネズミ、ヘビ等の動物も食べる。農作物では、イモ類、水稻、タケノコ、カキ、クリ等が被害を受けやすい。

社会性

母と子からなるグループを形成する。また血縁関係のある複数の母子グループが、十数頭のグループを形成することもある。親離れの際には、同腹の子同士によるグループが一時的に形成される。オスは、交尾期以外は基本的に単独で行動するが、若いオス同士でグループを形成する場合がある。縄張り性は低いと言われている。

繁殖

交尾期は年 1 回、12～2 月頃で、出産期は 4～6 月頃である。繁殖可能なメスは、毎年 2～7 頭（平均 4～5 頭）を出産する。春の出産に失敗した場合、秋にも出産を行う場合がある。満 2 歳で初産を迎える。一般的に、幼獣の死亡率は高い。野生下での平均寿命は 10 歳前後と言われている。

性格

通常は警戒心が高く、臆病で注意深い動物である。しかし、危険を感じたときや、過剰に興奮した際には、攻撃的になる場合がある。また、人や人の生活環境に慣れると、行動が大胆になる場合がある。

知能

学習能力が高く、記憶力も高い。人の活動や、人の設置した構造物を学習し、柔軟に行動を変化させることがある。

身体的特徴

鼻は、優れた嗅覚を有する感覚器としてだけでなく、地面を掘り起こしたり、重い石等を動かしたりする際に使用する。鼻の力は非常に強く、時に 50～70 kg の物を動かすことがある。

跳躍力に優れ、助走なしで 1m の高さの構造物を乗り越えることができる。また、地面から上に 20 cm 以上の隙間があれば、潜り抜けようとする。後肢だけで立ち上がるることができる。

成獣は犬歯が発達している。犬歯の側面は鋭利な刃物のような形状をしており、危険である。

外観

体色は茶褐色から灰色で個体によって様々である。0 歳の幼獣は縞状の模様がある（ウリ坊）。体毛は太く、剛毛で電気を通しにくい。



イノシシの成獣と幼獣（ウリ坊）



イノシシの幼獣（ウリ坊）

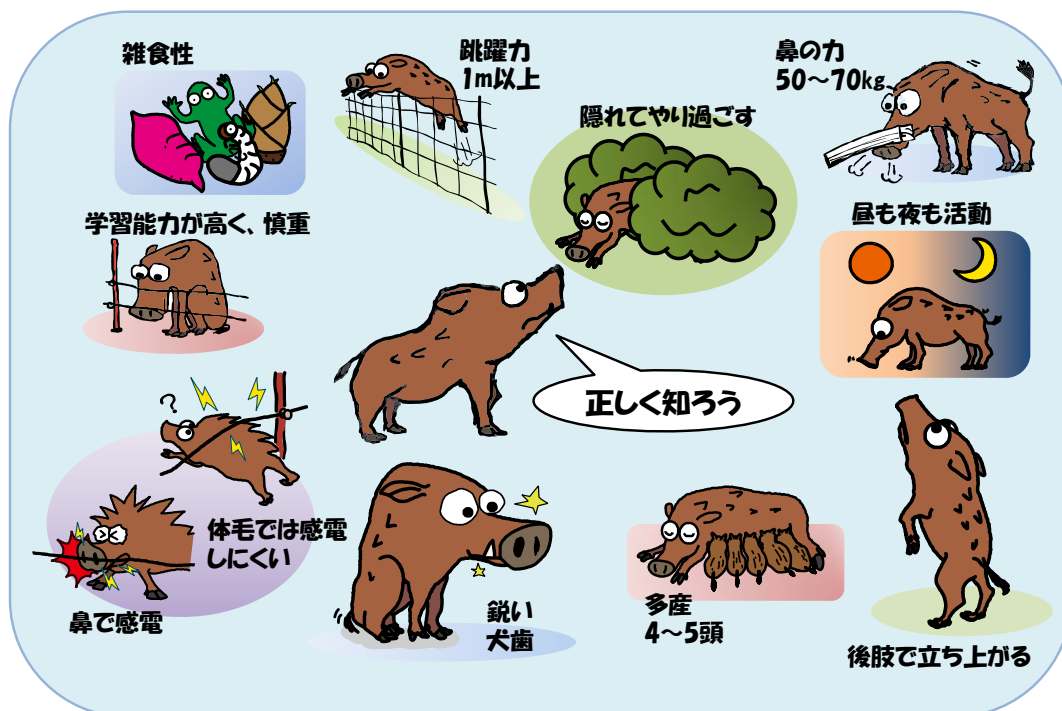


図 I-2 イノシシの主な特徴

4. 痕跡

足跡と足跡のパターン

イノシシは、鯨偶蹄目に分類される。前肢・後肢それぞれに1対の主蹄・副蹄がある。柔らかい地面では、主蹄と副蹄の両方の跡が残ることが多い（図 I-3）。



イノシシの蹄（横、内側）



イノシシの蹄（裏側）



図 I-3 イノシシの足跡

糞

食物として植物の割合が高いため、糞は未消化の繊維質で棒状に繋がっていることが多い。乾燥した糞はバラバラに分かれることがある。



古い糞



新しい糞

ヌタ場

ダニ等の外部寄生虫の除去や、体温調節のために、窪地の水が溜まりやすい場所で泥浴びをする。泥浴びをする場所をヌタ場といい、繰り返し使われることも少なくない。イノシシ以外にもシカが利用することがある。泥浴びをした後、体についた泥を周辺の樹木に擦りつけることがあるため、ヌタ場の周辺の樹木には泥のついた擦り跡がみられることがある。



水が溜まったヌタ場



ヌタ場周辺の樹木に体を擦りつけた跡
体毛が残っている場合がある

採食痕

イノシシは、植物の根や地下茎、落ち葉の下にいる昆虫やミミズ等を採食するために、地面を掘り起こす。このとき、地面に採食痕が形成される。避難区域等の住宅地に出没した際は、家屋の生垣の根や花壇を掘り起こすことがある。



タケノコの食痕



地面を掘り起こした跡



生垣の根を掘り返した跡



花壇を掘り起こした跡

寝跡

落ち葉やササ、低木の枝等で作った巣で、中や上に寝た跡がある。



ササや低木の枝で作った寝跡

擦り跡

イノシシが泥のついた体を樹木に擦りつけた跡 (図 I-4)。付着した泥の鮮度や樹皮表面の摩耗度から頻繁に利用しているかを推測することができる。擦り跡には、体毛が残っている場合がある。イノシシの体毛は、太く、毛の先端が枝分かれしていることが多いのが特徴である。

避難区域では、不在住宅の壁や道路沿いのコンクリート壁面など、人の生活環境内でもみられることがある。



樹木の根元の擦り跡



擦り跡に付着した体毛

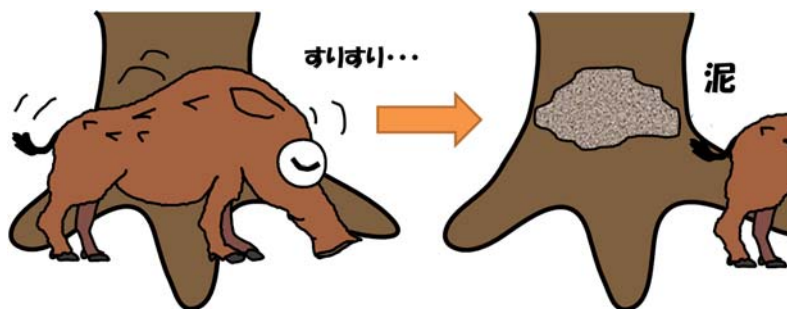


図 I-4 イノシシの擦り跡



住宅の戸についた擦り跡（泥）



イノシシの鼻の跡（白い点線）と
実際のイノシシの鼻の写真（左上）

牙とぎ跡

イノシシが樹木の幹に犬歯で傷を付けた跡。



牙研ぎ跡



牙研ぎ跡

獣道

イノシシが通った跡。ニホンジカやその他の動物も同じ獣道を使うことがある。イノシシが利用している獣道は、道脇の下層植生に泥が付着していることがある。



道路脇の獣道



泥の着いた下層植生

農作物被害

イノシシによる主要な被害作物としては水稲と果樹が挙げられる。その他、畔の掘り起し等による間接的な被害がある。



水稲被害

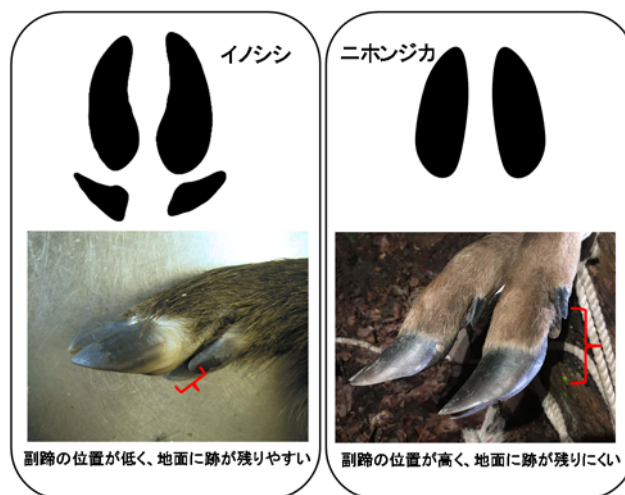


食べられた穂先

5. 他種動物の痕跡の比較

(1) シカの足跡とイノシシの足跡

ニホンジカは、イノシシと同じ鯨偶蹄目に分類される動物で、イノシシと同じ蹄の構造をしている。イノシシの副蹄は地面に近く、ニホンジカの副蹄はそれに比べて地面から離れているという違いがある (図 I-5)。そのため、イノシシの足跡は副蹄が残りやすく、ニホンジカは副蹄が残りにくいという特徴がある。ただし、地面の状況や足のつき方で足跡の形状は変化するため、イノシシだからといって必ず副蹄の跡が残るという訳ではない。同じく、ニホンジカであっても、足を強く踏み込んだ場合には副蹄の跡が残る場合があるので注意が必要である。



地面の状況や足のつき方で足跡の形状は変化する。そのため、イノシシだからといって必ず副蹄が残る訳ではない。また、シカであっても副蹄が残る場合があることに注意が必要である。

図 I-5 イノシシとニホンジカの足の構造の違い

(2) 間違いやすい動物の痕跡

① ニホンジカ

 <p>ニホンジカの糞 (粒状)</p>	<p>俵型で、イノシシの糞よりも粒が小さい</p>
 <p>ニホンジカの糞 (粒状がつながったもの)</p>	<p>糞粒がつながった状態で排泄される場合がある ニホンジカの糞であれば糞粒同士が分離できるが、イノシシの糞であれば糞粒同士が繊維質で繋がっており分離しにくい</p>
 <p>ニホンジカ (オス) の角とぎ</p>	<p>イノシシの牙研ぎ跡よりも筋が細長く、複数本がまとまって残る</p>


② ニホンザル

 <p>ニホンザルの糞</p>	<p>繊維質の食物を食べていた場合、イノシシと同じく数珠状につながっており、イノシシの糞に似ている</p>
--	---

③ ツキノワグマ

 <p>ツキノワグマの糞（ドングリ等）</p>  <p>ツキノワグマの糞（カキ）</p>	<p>個体の大きさによるが、比較的大きいな糞。色や臭いは食べた食物の内容により様々である</p> <p>イノシシの糞のように数珠状になることはない</p>
 <p>ツキノワグマの爪痕</p>	<p>木を登り降りした際についた爪痕が数本の平行線状に残る</p>

④ ノウサギ

 <p>ノウサギの糞</p>	<p>イノシシの糞より小さく、シカの糞よりも円形に近い</p> <p>イノシシの糞のように数珠状になることはない</p>
---	--

<参考> イノシシの行動圏の構造 ～イノシシ・コア～

※イノシシ・コアとは

GPS データロガーをイノシシに装着して、15 分毎に位置を測位しイノシシの行動圏調査を行ったところ、特にイノシシが好んで留まる比較的狭いエリアが存在することが明らかとなった。このエリアには、イノシシの活動点が高密度に集中しており、イノシシ・コアと呼ばれる（赤い円）。

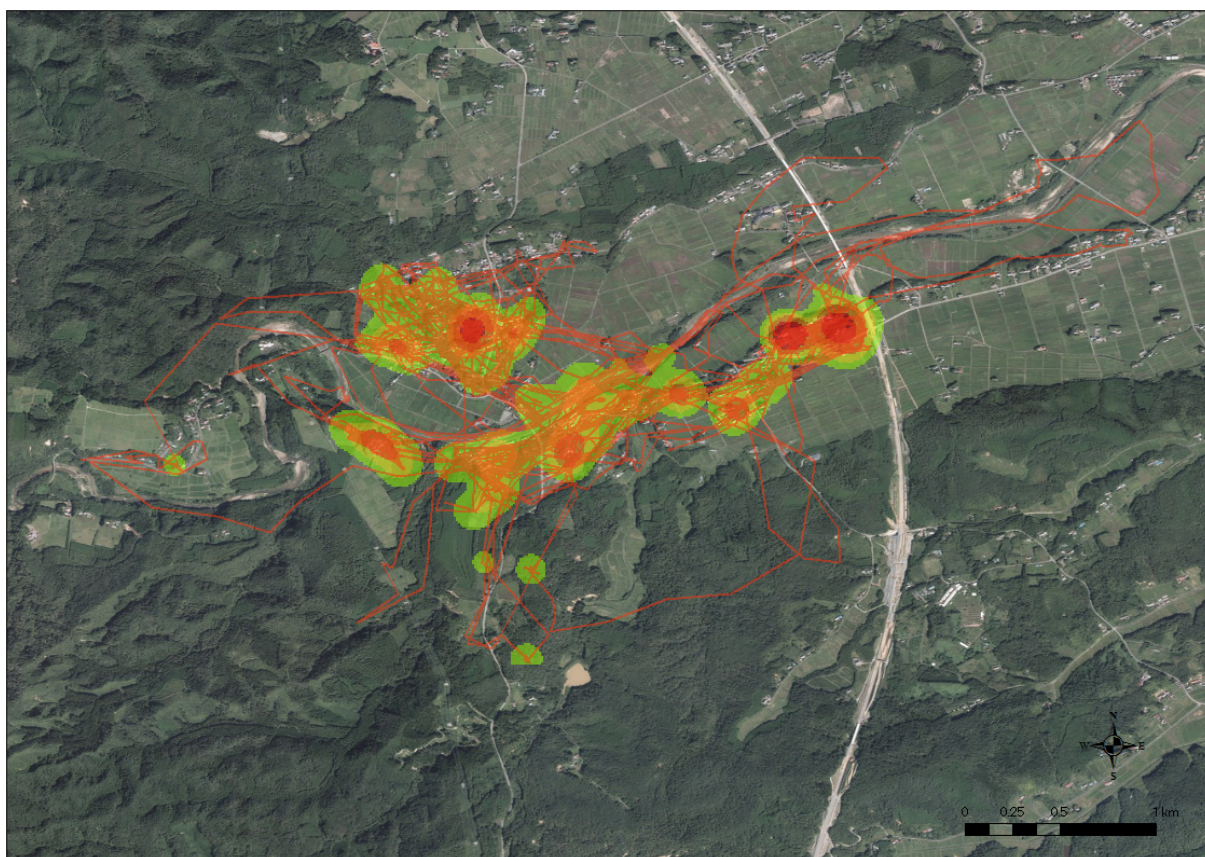


図 GPS データロガーにより得られたイノシシの位置情報の解析

測位ポイントが高密度に集中している場所（イノシシ・コア）が散見される

※データ：福島 12 市町村におけるイノシシ被害対策の広域連携に関する調査業務（復興庁）より